2008年北京市におけるオリンピック教育の実践分析

—北京市門頭溝区の小・中学校について—

郭　子申*・海野　勇三・中島　憲子**・吉中　孝志***

An Analysis of the Practice of the Olympics Education in Beijing City in 2008
: Study on the Elementary Schools and Junior high schools in Beijing City

GUO Zishen*, UNNO Yuzo, NAKASHIMA Noriko** and YOSHINAKA Takashi***
(Received December 7, 2009)

キーワード：北京オリンピック大会、オリンピズム、オリンピック教育、
緑色五輪、人文五輪、科学五輪、「同心結」プログラム

1．はじめに

オリンピック運動会は、４年に一度繰り広げられる華やなスポーツの世界祭典であり、そこでは参加競技者は、民族、文化、経済の別なく、公平に競い合う。そして多くの感動のドラマが生まれる。

ところで、2008年第29回オリンピック大会は、中国の北京で迎えた。そして、様々な話題に包まれながら開幕し、全世界の注目する中で、成功裏に大会を閉じた。

さて、これまでにも、夏・冬のオリンピック誘致を機に、開催都市では、学校教育の一環として多彩なオリンピック教育を実践してきたことは周知のとおりであるが、中国でも、オリンピックの北京市誘致が正式に決定する前後から、大会の成功に向けて国内の学生(小・中・高校・大学生)及び一般市民を対象にして、オリンピック教育が多面的・広範囲に展開されており、それらは、インターネット・新聞・テレビ等を通じて国内外に紹介されてきた。そもそもオリンピック・ムーブメントの中で、オリンピック教育とはどのように位置づけられているのであろうか？また、それら教育実践を通じてどのような価値を実現することが目指されているのであろうか？

そこで、本報告では、北京市（門頭溝区を中心とした）小・中学校において実践されたオリンピック教育の中から入手可能な資料をもとに分析し、実践の類型化とそれぞれの特徴を明らかにする。そして、今後におけるオリンピック教育の実践システム（目標—内容—方法）とそれらの教育的可能性について示唆を得たい。

＊山口大学大学院教育学研究科　＊＊中村学園大学　＊＊＊山口大学教育学部附属光中学校

２．研究方法

２－１　実践分析の対象とした学校及び時期

北京市内（門頭溝区を中心として）の次の学校を対象とした。

小学校７校：大裕第一小学校、大裕第二小学校、工人子弟小学校、育園小学校、
東辛房小学校、譚柘寺小学校、城子小学校

中学校４校：大裕中学校、新橋路中学校、西辛房中学校、
北京師範大学付属中学校永定分校

なお、いずれの学校もオリンピック教育活動の時期は、2005年（開催日前の1000日）から2008年10月（パラリンピック終了）の期間に実践されている。

２－２　研究の進め方

初めに、2008年北京オリンピックの三つ理念とオリンピック教育活動の関係を確認する。次に、北京オリンピック開催と同時進行で展開されてきた中国におけるオリンピック教育の実施状況に関し、資料を収集し分析を行うことで、その中国的特質を明らかにする。

そして、今後におけるオリンピック教育の実践システム（目標―内容―方法）とそれらの教育的可能性について示唆を得たい。

３．考察

３－１　北京オリンピック大会の「三つ理念」とオリンピズムの関係

北京オリンピック大会では「绿色五輪・科技五輪・人文五輪」の三つの理念が提示されたが、北京市内の各学校はこの三つの理念に沿ってオリンピック教育を展開している。

初めに、それぞれの理念の意味するところを確認しておこう。

３－１－１　緑色五輪

緑色五輪とは、次のような施策を総称する理念である。それは、環境保護をオリンピック計画と施設建設の一番の条件とする、厳しい生態環境基準とシステムの保障制度を制定する、環境保護技術と方法を取り入れ、大規模且つ多方面から環境整備と緑化美化をすすめ、環境保護産業の発展を促進する、全社会の環境保護意識を高め、国民のグリーン商品の消費、積極的に生態環境改善活動への参加を激励するなど、北京の環境質を大幅に向上させ、生態都市を建設しようというのが緑色五輪である（北京オリンピック委員会. 2002）[1)]。ちなみに中国語の「緑色」のもう一つ意義は、公平・公正である。中国では「緑色競技」または「緑色治法」の意味は、選手は公平に競技をし、審判は公正に評価をすることを意味している。

具体的には、緑色五輪に関する活動は、環境汚染の防除と生態環境の建設の二つ方面から展開された[2)]。

大気汚染の防除と飲用水の水源の保護を重点とし、経済構造を調整し、優れたクリーンなエネルギーを増加し、汚染物排出の基準をアップし、生態の保護と建設等を強化し、都市環境と生態状況の改善を遂げる。2008年までに、北京市内の二酸化硫黄、二酸化窒素、

オゾンの指数を世界衛生組織の指導数値の水準に到達させ、粒子状物資濃度を先進国大都市のレベルに低減させ、オリンピック開催の要求を満たす。石炭煙汚染の防除、車両排気ガス汚染の防除、都市ほこり汚染の防除、工業汚染の防除、飲用水源の確保、水汚染の防除、固体廃棄物管理の強化、騒音、電磁放射、放射性汚染の防除、固体廃棄物管理の強化、工業固体廃棄物、商業ごみと生活ごみの減量を促進する。都市生活ごみ分類収集、リサイクル、処理作業を促進する。2005年までに都市区と衛星都市の全部の生活ごみの無害化処理を実現する。厳格な危険廃棄物管理制度を設立し、全部の危険廃棄物の安全処理を保証する。

また、環境汚染を防除し、都市基礎施設を改善する上で、森林緑化の造成、水資源の合理的な利用、生態農業の建設を重点に置き、良好な生態基盤の建設を加速する。2008年までに青山、清水、緑地、青空と生態都市の目標を実現する。都市環境の整備では、広告板管理の強化、市民の生活ごみ収集施設の整備、送電線の地下ケーブル化、建築物の美化を強化する、都市緑化美化水準を向上させ、環境美化市区、住宅地の建設を強化する、郊外環境の総合整備を強化して、郊外の環境状況と管理水準を都市レベルにまで高める。

さらに、市民の生態文明意識を高め、公民のエコ商品購買を呼びかけ。全社会で環境にやさしい消費習慣を提唱している（エコ住宅地、エコ商店、エコ校区、エコ企業）。家庭と企業がリサイクル、節水、省エネ、ごみ分別収集に協力し、オゾン破壊につながる設備を使用しないこと、市民には公共交通の利用を呼びかけ、市バスやタクシー運転手には、車両の整備、車両の清潔および排気基準の遵守を求めている。

３－１－２　人文五輪

人文五輪とは、オリンピズムとともに中華民族の優れた文化を広め、歴史文化都市としての北京とその市民の友好な姿を見てもらおうとするものである。そこでは、次のような施策が強調されている。中国と外国の文化交流と融合の推進、各国人民間の理解、信頼と友誼を深める、「人が基礎」を基調として、あくまでも選手を中心とし、オリンピックに適する自然と人文環境を提供し、優れたサービスを提供する、オリンピズムを尊重し、オリンピックに伴う各種文化教育活動を展開し、全人民の文化生活を豊かにするとともに、青少年の発育を促進する、全人民の参加を基礎とし、文化スポーツ事業の繁栄と発展を推進し、中華民族の団結力と自尊心を強化する（北京オリンピック委員会．2002）[3)]。

さらに、文化は現代オリンピック運動の重要な部分であることから、中国五千年の伝統文化の優秀な成果と北京の歴史文化都市としての風貌を披露することも重視されている。そのために、オリンピック文化を主題とする活動の展開、オリンピック開催式、閉会式、聖火のリレー活動を完璧に設計・演出する、具体的には「北京オリンピック文化会」の開催、多種多様な内容と形式をもって、オリンピズムを表現し、オリンピック大会と連携しながら北京国際音楽会、新年音楽会等代表的な文化活動を展開する。

また、人文五輪では、民族団結の強化も含意されている。すなわち、中国共産党の民族政策、宗教政策と北京市の『少数民族権益保障条例』を貫き、全市民の民族団結意識を高め、各民族がオリンピック大会に関わり、北京オリンピック大会を全国民族の祭日に盛り上げようというものである。オリンピック大会期間中、各民族と各国選手の宗教習慣を尊重し、宗教活動の場も設けられた。[4)]

３－１－３　科技五輪

科技五輪とは、最新技術科学を積極的に取り入れ、中国科学技術の最新成果を集めて、高技術のスポーツ祭典に盛り上げようとするものであり、またこれを機に、北京の科学技術能力を向上させ、先端技術成果の産業化と実用化を推進して、北京オリンピックを先端技術成果と独創力の展示の窓口と位置づけるものである（北京オリンピック委員会. 2002）[5]。

科技五輪でとくに目指されたのは、都市情報システム化を推進し、「デジタル北京」を建設すると同時に、「デジタル五輪」計画を実施することであった[6]。通信の基礎施設とネットワークシステムを建設し、良好な情報環境と優良な情報サービスを提供する。具体的には、2008年までに、いかなる人もいかなる時にいかなる場所でも安全・便利・高速・効率であり、しかも豊富で、言葉の障害なく個性的な情報サービスを受けられることを実現しようとする施策である。このことを通じて北京オリンピックの開催成功を保証し、同時に世界に対し中国の情報システム化のレベルと成果を披露することが可能となる。高度情報技術研究開発と産業化した高性能コンピューター、ネットワーク技術等の情報技術の重点的開発、成熟した技術の実用化、大型スポーツ情報システム、デジタル化スポーツ設備、デジタルメディア設備、インテリジェントカード及び関連設備の産業化の推進が取り組まれた。

３－１－４　オリンピックムーブメントとオリンピズム

次に、オリンピックムーブメントとその基本理念たるオリンピズムについて確認しておきたい。

オリンピックムーブメントとは、国際オリンピック委員会（IOC）[7]のもとで行われる普遍的で恒久的な活動であり、その活動は、肉体・意志・知性という人間の資質を究極的に磨き、均衡のとれた人間の総体を目指す人生哲学（オリンピズム）に依って生きようとする個人・団体によって推進されている。言うまでもなく、その頂点に達するのが世界中の競技者を一同に集めて開催されるスポーツの祭典、オリンピック競技大会である。オリンピックムーブメントは五大陸にまたがり、互いに交わる五輪のマークがそのシンボルであるとオリンピック憲章で定められている。そのオリンピックムーブメントを統括する最高機関がIOCであり、オリンピック憲章に従って、オリンピズム（オリンピックの精神）を普及させるという大切な役割を担っている。

JOA（2008）[8]によれば「オリンピック憲章」の中の「オリンピズムの根本原則」は、次のように規定されている。「オリンピズムは人生哲学であり、肉体と意志と知性の資質を高めて融合させた、均衡のとれた総体としての人間を目指すものである。スポーツを文化や教育と融合させるオリンピズムが求めるものは、努力のうちに見出される喜び、よい手本となる教育的価値、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重などに基づいた生き方の創造である」。「オリンピズムの目標は、スポーツを人間の調和のとれた発達に役立てることにある。その目的は、人間の尊厳保持に重きを置く、平和な社会を推進することにある」。

これらの規定の中から次の四つのポイントを読み取ることができる。

①スポーツは人間の肉体、意志、知性の調和の取れた総体としての発達・形成にとって必要な文化であること。

②「そのために努力して達成する」という教育的な価値の視点。
③倫理的な諸原則に基づく生き方の探求、すなわちフェアプレーの精神。
④その過程を通じて平和な社会を目指すことの意義。
以上のように、平和運動としてのオリンピズムについては、「オリンピズムは理念と理念のハーモニーである」、「個人の健全な身体と道徳の促進と健全な発達を保障する」、「相互の尊敬と国際的友好の」雰囲気の中で国・地域のアスリートたちが集うことによって、よりよい世界平和に貢献する」など、多様な指摘もなされている。

３－１－５　北京オリンピック大会の「三つ理念」とオリンピズムの関係

何振梁（2008）[9]は「北京が打ち出した理念とオリンピックの核心的な価値観とは一致している」とし、百年以上前から、オリンピックは一貫して「スポーツを通じて、身体と心がバランスよく発達した人を育成し、個人の尊厳を尊重する社会を作り、美しい平和な世界を作るために貢献してきた」と述べる。また、何振梁によれば、スポーツだけではこの目的を達成することはできず、社会や文化・教育と結びつかなければならないということも、オリンピックは強調してきた。ここ数年、世界的な環境の悪化につれて、人類の環境保護に対する関心が日増しに高まり、オリンピックも環境保護を大いに提唱するようになった。こうして現代オリンピックは、自らの理念を支える三つの柱を形成した。それがスポーツ、文化、環境保護であり、北京オリンピックの理念もまさにここから出てきたのである。

３－２　中国オリンピック教育について

過去のオリンピック開催国で展開されたオリンピック活動経験を紹介する資料等によれば、オリンピック運動が開催国の政治、経済、文化、教育・スポーツなど多方面に影響を及ぼしていることがわかる。そして、2008年北京オリンピックでも北京に多く発展の機会をもたらした。北京の学校教育とオリンピック教育の発展もその一つである。

３－２－１　中国オリンピック教育の背景と問題

1990年以前は、中国のオリンピック教育は貧しい状態であった。というのも、中国のオリンピックの歴史で、1950年に中国と国際オリンピック委員会が連絡を中断し、それが回復される1980年までの30年間は中国体育とオリンピック運動の発展に巨大な損失をもたらした。これも中国のオリンピック教育にとって不幸とも言える影響を与えた。オリンピックとの接触が途絶えたために、この時期オリンピックの知識が中国人民のなかに普及する程度を著しく下げた。
現在、北京市は「素質教育」の改革をすすめており、学校教育は道徳、知識、スポーツ、美術、労働を全面的に発展することを目指して、創造的な精神の学生を養成しようとしている。これらの理念はオリンピック教育の理念と通じているのであるが、実際には、こうした先進的な教育の理念は現実的な教育の実践の中で必ずしも十全に実現することができていない。その原因は、
①教材と教師の不足。1990年以前は、中国の大学ではオリンピックに関する教材がなく、教師の側にもオリンピック教育とオリンピック知識の理解は乏しかった。1990年以後は、オリンピック関連の出版物は次第に増えたものの、しかし中国の４億人の青少年の人

数に対比したとき、やはり不足していた。

②進学率至上主義。政府の教育部門は素質教育を強調し、普通学校でも教育改革をスローガンに掲げる。しかし、依然として学校の評価標準では進学率と教育成果が第一義であり、試験志向の教育（応試教育）を重視する。学生の教科書は薄く、宿題は少くなって、しかし、勉強の負担は軽減しない、負担が強くなる。子供達のアマチュアの時間は一般教養補習クラスで勉強し、運動する時間はあまりない。父母の関心事はもっぱら子供の入学試験ことであり、体育の地位はとても低く、このような社会の心理状態で素質教育の改革が困難なのは必然である。

③体育軽視。試験が近づくと体育の授業は中止され、その時間はその他の主要課目を復習する時間に当てられる。これは慣例になっている。また、体育教育の経費を他の用途に流用したり、体育の場所が他用途に占用されたり、体育施設が古くても長年修理されていない、など様々な問題がある。このような教育観念と教育の現状を放置していては、素質教育の改革とオリンピック教育は困難である。

④マスコミの報道姿勢。社会の国民にとって、マスコミはオリンピック教育の過程を普及させるうえで重要な役割を果たす。1992年に開催されたアジア運動大会（北京大会）の後、中国のスポーツのマスコミは急速に発展した。しかし、マスコミはオリンピック運動を報道する時、多くの場合はオリンピズムとオリンピック運動の社会価値を軽視し、特にスポーツのスター選手とメダルの獲得に注目している。これによって、国民のオリンピックに向けられるまなざしも、スター選手とメダル獲得競争へと誘導される。

３－２－２　2001年以降のオリンピック教育について

2001年以降、中国ではオリンピックに関する読み物教材が多数開発されている。『オリンピック運動』（人民体育出版社）、『中学生オリンピックの知識』（北京オリンピック出版社）、『北京2008年オリンピックについて』（北京体育大学出版社）、『オリンピック書目』（人民体育出版社）、『オリンピック百年』、『オリンピックの理想』と『オリンピック百科』（いずれもオリンピック出版社）など。これら教材の内容は、オリンピックの知識、オリンピズム、中国のオリンピックの発展過程、北京オリンピックの申請過程、近代オリンピックの歴史、オリンピック運動会と中国の社会、経済、文化などとの関係、人類の平和と世界の調和、中華民族の尊厳などである。

オリンピック教育の主たる担い手は体育教師であり、したがって、学生を指導する体育教師自身のオリンピックに関する知識を強化する必要がある。そのため、中国の体育教師と体育教育専門学校の在籍学生を対象にオリンピック知識を強化し、オリンピックをめぐる教材とその知識を習得して、子供達にオリンピックに関する正しい知識とオリンピズムなど内容を指導できるようにする施策が実施されている。

また、大衆のマスコミの積極的な作用を発揮することもすすめられた。例えば、マスコミで全面的にオリンピック運動会を紹介し、家庭レベルにオリンピックの知識とオリンピズムを広めるために、オリンピックに関連する特別番組をシリーズでテレビ放映したり、全国レベルでオリンピックの知識テストを開催したり、オリンピックの英語スピーチコンテストを組織するなど、オリンピックに関連する教育ネットが創建された。

３－２－３　2008年北京オリンピック教育について

北京オリンピック委員会は2005年に北京市内の各学校のオリンピック教育活動の目的と内容について、次のような方針を提起した（2008年北京オリンピック教育組織の関係では、図１のように組織している）。

2008年北京オリンピック開催に向けて、オリンピック教育活動を強化する。そのための具体的な課題として、関連書籍、テレビ、新聞等メディアを通して、オリンピック知識とオリンピズムを普及する、小・中学校にて「オリンピック教育読書」運動を展開し、オリンピック教育活動と学校運動会を結びつける、学生のオリンピック教育活動への参加を促進し、オリンピック教育活動と学生の健康活動を結びつける。学生のオリンピック大会に対する意識とオリンピック活動への参加意識を高める、などが示された。

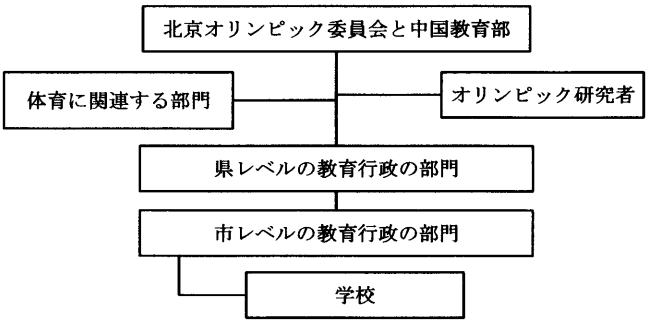

図１　2008年北京オリンピック教育の組織システム
（北京オリンピック委員会．2005）

また、北京オリンピック教育の内容として七つの柱を打ち出している。

①オリンピック知識を普及させて、オリンピズムを広める。

②各学校の各学年で特色あるオリンピック教育を展開する（学年別にオリンピック教育目標を設定する。例えば、幼児園の教育目標はオリンピックの認識、小・中学校の目標はオリンピック知識を普及させるなど）。

③オリンピック教育活動を展開する。

④オリンピック教育のカリキュラムを開発する。

⑤オリンピック教育の評価基準を設定する。

⑥オリンピック教育と学校研究を結合する。

⑦国際学校との「同心結」プログラムを展開する（注：「同心結」プログラムは英語では「Heart-To-Heart International Partnership Program」、「同心結」プログラムの起源は1998年日本の長野冬オリンピックの「一校一国」活動であり、この活動の目的は子どもの国際交流能力を強化して、国際の相互理解を促進することにある。中国の「同心結」プログラムの主要任務は二つある。ひとつは他の国の文化、地理、歴史などを理解すること、もうひとつは、オリンピック開催期間中に外国の選手に適切なサービスを提供することである）。

３－３　北京市門頭溝区各学校のオリンピック教育活動内容と分析

３－３－１　大裕第二小学校のオリンピック教育の具体的な内容

高海英（2008）は大裕第二小学校のオリンピック教育活動の内容を紹介している[10)]。

大裕第二小学校では、2003年から、オリンピック教育の実践に着手しており、オリンピック教育の価値を次の４点から捉えている。

①オリンピック教育と素質教育の目標は同じである。オリンピック教育を通じて、子ども達の国際視野を広めて、世界の異文化理解を促進して、子ども自身の素質を高める。

②子ども達は「肉体・意志・知性という人間の資質を究極的に磨き、均衡のとれた人間の総体を目指す人生哲学」を学習して、積極的にスポーツ運動に参加して、健康な生活習慣と良好な人格を育成する。

③オリンピック教育を通して、学校の子どもと外国の青少年が交流して、中国固有の文化を展示する。

④オリンピック教育を通じて、学校の道徳教育を推進する。

図２は、「緑色の五輪、科学五輪、人文の五輪」の三つのオリンピック理念と学校教育の関連を示したものである。

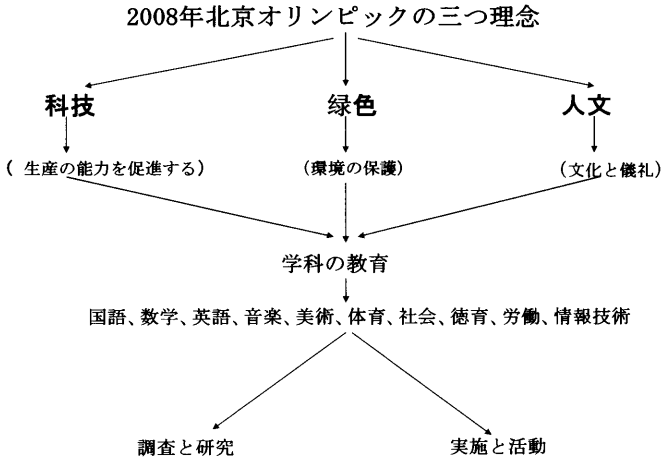

図２　北京オリンピックの三つ理念と学校オリンピック教育の関係（高海英．2008）

大裕第二小学校はオリンピック教育と学校教育を結びつけて、特色あるオリンピック教育活動を実践し、様々な取り組みを通じて、子どもたちはオリンピックの理解、北京文化の理解、中国文化の理解を促進し、同時に自主探求の能力や協力能力などを育成している。図３は、大裕第二小学校の学校教育とオリンピック教育を結合したカリキュラムモデルである。

教師たちは、各教科指導の場面で実施可能なオリンピック教育の方法を工夫している。例えば、音楽の授業では、オリンピックに関する歌を学ぶ。体育の授業では、オリンピックの知識、中国の民族体育を学習して、ミニオリンピック運動会を開催する。美術の授業では、オリンピックに関連するものを設計して、中国の特徴文化、中国画、中国書道を学習する。また、授業以外でもオリンピック教育総合活動を展開している。例えば、学校内外でごみの整理とリサイクルの回収，コミュニティでオリンピック教育の展開などである。

さらに、「同心結」プログラム交流活動も実践されている（後述）。

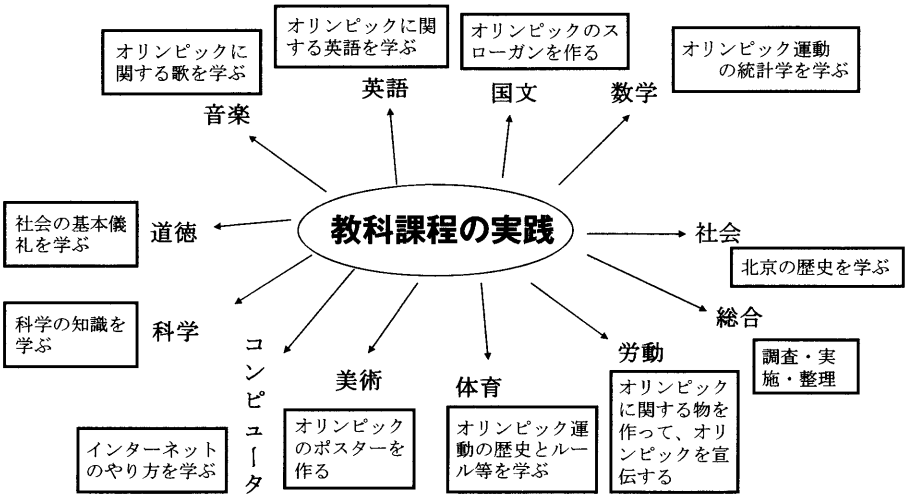

図３　小学校のオリンピック教育の課程システム（高海英．2008を一部修正）

３－３－２　各学校のオリンピック教育活動内容

ここでは、実際に取り組まれた教育実践のいくつかを紹介しておく。

①大裕第一小学校と北京外国語大学のスーダン留学生の「同心結」プログラム交流活動。大裕第一小学校では、校長が北京の歴史をスーダンの留学生に紹介し、またスーダンの文化、地理、習慣などの資料を留学生から収集して、学生に指導している。そして学校で体育祭を「一班一国」の形式で開催し、各班は各国の民族文化、音楽などを学び、その成果を展示発表した。さらに、学校でオリンピックのボランティア組織を創立している。

②大裕第二小学校とウクライナ留学生の「同心結」プログラム交流活動。ウクライナの文化、生活習慣を了解して、ウクライナ語を学んで、ウクライナの留学生と子ども達が一緒にゲームを遊ぶ、ウクライナの駐中国大使が学校を訪問する、ウクライナの留学生が学校で中国の新年を祝い、などの活動を通じて、中国とウクライナの友情を促進している。また、「オリンピックを満喫する」をテーマにオリンピック文化祭を開催して、オリンピック知識の交流、オリンピックに関する書画の展覧、文明儀礼、そして、締めくくりとして体育運動会を開催している。さらに、オリンピック委員会の研究委員と北京師範体育大学の教授を大裕第二小学校に招いて、子どもに直接オリンピック教育を指導している。

③工人子弟小学校とナウル留学の「同心結」プログラム交流活動学校。

ここでは、「私とオリンピック」の論文を募集したり、「緑色五輪」に関する活動を展開したり、ミニオリンピック運動会を展開している。またオリンピック知識の競技会を開催し、オリンピックに関する内容を各班で交流する活動にも取り組んでいる。

④育園小学校では、オリンピック文化祭を開催して、長距離競走活動を展開した。この中で、各年級でオリンピックのスピーチコンテスト、「日光のスポーツ」活動（体操、走る）、ミニオリンピック運動会を展開している。またオリンピックの専門研究者を学校に招いて、子ども達にオリンピック教育を指導した。さらに、「一班一種目スポーツ」活動を展開し、２７の班が２７種目のオリンピック競技の内容、ルールを勉強して、交流している。

⑤東辛房小学校は「平和オリンピック、文明儀礼」のスピーチコンテストを開設した。

また、オリンピック工芸品を製作し展示するとともに、ミニ運動会を開催している。

⑥譚柘寺小学校では、フランス留学生との「同心結」プログラム活動を展開している。この中で中国の民族体育を展示したり、オリンピックに関する美術品を制作している。

⑦城子小学校では、「小さい手と大きい手」と題するオリンピック知識の競技会を運動祭と併せて開催している。

⑧大裕中学校は北京市の西城区でオリンピック環境保護の宣伝活動を展開した。この学校では各班単位で取り組まれている。オリンピックの読書会、そして子ども達を組織して実際にオリンピック運動会を観光している。

⑨新橋路中学校では、オリンピック文化祭と運動祭を展開した。また、バルバドス留学生との「同心結」プログラム交流活動にも取り組んでいる。学校でオリンピック教育専門の研究会を開催し、「都市と農村」をテーマとして、新橋路中学校と農村中学校のオリンピック交流活動を展開した。

⑩西辛房中学校でもオリンピック文化祭とオリンピック運動祭を展開している。ここでは「私は参加、私は健康、私は楽しみ」テーマをとして、スピーチコンテストを開設したり、町の掃除活動への取り組み、安全な消防の内容の勉強、学校で家族運動会などを展開した。

⑪北京師範大学付属中学校永定分校では「身体訓練」テーマをとして、学校のスポーツ活動を展開した（バスケ運動会）。また「オリンピックと私の生活」をテーマとするスピーチコンテストや安全な消防の内容を勉強している。

３－３－３　各学校のオリンピック教育活動の分析

北京オリンピックでは「绿色五輪・科技五輪・人文五輪」の三つの理念が提示されたが、上述したとおり、北京市内の各学校はこの三つ理念に沿ってオリンピック教育活動を展開していた。

「同心結」プログラムは人文五輪に関係しており、中国の生徒と他の国の学生が交流活動を通じて、中国の特徴文化を展示し、また他の国の地理、歴史、文化、生活習慣を理解することによって、国際理解とともにオリンピズムの理解と国際の交流を促進していた（加えて、オリンピック開催時には、他国の選手に適切なサービスを提供した）。さらに、運動祭を通じて、オリンピックの標語「より高く、より速く、より強く」の理解を深め、同時に生徒の人生観までも変えたとされていた。「緑色五輪」に関する活動では、生徒の環境に対する認識を深めて、学校と社会の環境を改善して、キャンパスの雰囲気を高めることに貢献した。オリンピック知識のテスト・スピーチコンテスト・オリンピックに関する美術品の製作活動を展開して、学生はオリンピックの歴史、オリンピズム、オリンピック運動会、オリンピックのルールなどへの理解を促進した。表１は、各学校のオリンピック教育活動の概要をまとめたものである。

表１　各学校のオリンピック教育活動の概要（○は実施、―は未実践）

学　校	人文五輪教育活動	緑色五輪教育活動	科技五輪教育活動	運動祭	特徴活動
大裕第一小学校	○	―	―	○	○
大裕第二小学校	○	―	○	○	○
工人子弟小学校	○	○	―	○	○
育園小学校	―	―	―	○	○
東辛房小学校	―	―	○	○	○
譚柘寺小学校	○	―	○	○	○
城子小学校	―	―	―	○	○
大裕中学校	―	○	―	○	○
新橋路中学校	○	○	―	○	○
西辛房中学校	―	―	―	○	○
北京師範大学付属中学校永定分校	―	○	―	○	○

このように各学校ではそれぞれの状況や生徒のオリンピックに対する理解の程度などを考慮して、様々なオリンピック教育活動を展開していた。図４は学校のオリンピック教育課程を国、地方および各学校が連携しながら開発に取り組む関係を示したものである。

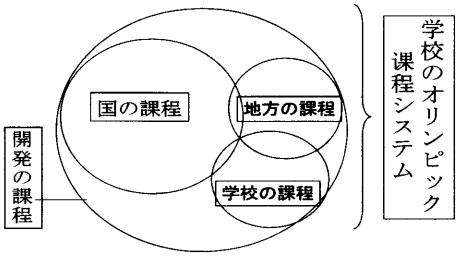

図４　学校のオリンピック教育課程システム
（北京オリンピック委員会．2008）

３－３－４　北京市オリンピック教育の成果

2005年、中国の国家教育部と北京オリンピック委員会は「2008年オリンピック教育計画」を実施した。この計画は、中国の4億の青少年、特に2.3億の小・中学生を対象にオリンピック教育を展開し、オリンピック知識の普及とオリンピズムの理解を促進しようとするものであったが、その結果、以下のような成果をあげることに成功している。

①中国の国家教育部と北京オリンピック委員会は全国の40万の学校の中で、565の学校で「オリンピック教育」を実践した。その565の学校を中心として周辺の学校へとオリンピック教育の方法、オリンピック教育活動などを普及した。

②北京市の210の小・中学校と205ヶ国のオリンピック委員会・地域オリンピック委員会及び160ヶ国のパラリンピック委員会・地域オリンピック委員会と連携して、豊かな国際交流活動「同心結」プログラムを展開した。

③オリンピック教育を学校教育カリキュラムの中に位置づけ、学校の教科および教科外活動と文化活動を結合して、オリンピック教育活動を展開した。

④オリンピック教育活動を広く展開するため、体育教師とオリンピック教育関係者にオリンピック教育の知識を育成した。2008年まで、北京市内6800名の体育教師と3000名の学校管理者・道徳教師などを対象にオリンピック教育の専門研究会を組織し、その内容は、

オリンピック教育と体育カリキュラムの改革・オリンピック教育と体育授業の教育方法の比較などであった。

⑤様々なオリンピック教育に関する教材を開発した。

4．おわりに

2008年北京オリンピック大会は「緑色五輪、人文五輪、科技五輪」の三つ理念を提唱した。このうち「人文五輪」は重点理念であったが、そのことはオリンピック教育も同様である。2006年以降、門頭溝オリンピック教育委員会は地域の資源を利用しながら、地域特性、伝統文化、学校の特色ある教育を結びつけ、オリンピック教育と学校道徳教育、体育教育の結合を強化して、学校オリンピック教育を推進した。門頭溝区の各学校では、色々なオリンピック教育活動を通して、学生にオリンピック知識を普及させて、オリンピズムを広めていた。また、学生達はオリンピック教育活動に参加することを通して、オリンピック大会を理解し、オリンピック運動を体験し、自身の健康レベルと道徳観念を高めていた。その意味で、門頭溝区の各学校は、オリンピック教育活動の実践を通して、学校教育のレベルを高めることに成功したと言ってよいであろう。さらに、門頭溝区各学校のオリンピック教育経験は中国の学校オリンピック教育の発展にも貢献した。

他方、次のような克服すべき課題も残された。

①オリンピック教育で生徒が学習し身につけるべき内容の明確化と啓蒙主義に陥らない教育の在り方の追求。

②北京オリンピック終了後のオリンピック教育の永続の可能性の追求。

今後は、他のオリンピック教育実践国の体育の目標、教育課程およびオリンピック教育活動の具体的展開などの共通性と差異性を分析し、オリンピック教育が広く国際的に展開していくための課題と可能性を探求したい。

引用文献

1）梁柱平：オリンピック500問，北京科学技術出版社，199，2008.

2）北京オリンピック委員会：北京オリンピック実践計画，北京オリンピック出版社，13，2002.

3）梁柱平：オリンピック500問，北京科学技術出版社，199，2008.

4）北京オリンピック委員会：北京オリンピック実践計画，北京オリンピック出版社，15，2002.

5）梁柱平：オリンピック500問，北京科学技術出版社，199，2008.

6）徐飚：中等職業学校総合素養教材，オリンピック精神と文化，電子工業出版社，2008.

7）日本オリンピック委員会：オリンピック憲章，朝日出版社，10，2008.

8）日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会：『ポケット版オリンピック事典』，三栄社，18－30，2008.

9）中国オリンピック都市ネット，http://www.beijing2008.cn/.

10）高海英：オリンピック教育総合課程システムを構成して、オリンピック教育を展開す

る，耕耘－オリンピック教育文集，オリンピック教育資料(非売品)，門頭溝区オリンピック委員会出版社，220 - 225，2008.

参考文献

馬岳良：北京オリンピック申請前の中国青少年のオリンピック教育問題，体育と科学，第24巻，第２期，11-13，2003.

門頭溝区オリンピック教育委員会：耕耘－オリンピック教育文集，オリンピック教育資料(非売品)，門頭溝区オリンピック委員会出版社，2008.

門頭溝区オリンピック教育委員会：足跡－オリンピック教育紀実，オリンピック教育資料(非売品)，門頭溝区オリンピック委員会出版社，2008.

門頭溝区オリンピック教育委員会：記憶－私とオリンピック，オリンピック教育資料(非売品)，門頭溝区オリンピック委員会出版社，2008.

平井敏幸，真田久：長野冬季オリンピック大会での「一校一国交流活動」とオリンピズムについての理解との関連に関する研究―長野市内の小学校児童について―，日本体育大学紀要　第30巻　記念特別号（第2号），249-269，2001.

耿申：北京オリンピック教育工作日志，北京体育大学出版社，2008.

陳立基：論オリンピック運動発展観，北京体育大学出版社，2007.

赫勤：オリンピック運動200問，蜀蓉棋芸出版社，2001.

中国パラリンピック委員会：パラリンピック知識300問，華夏出版社，2008.

夏天島：百年、中国のオリンピック夢，二十一世紀出版社，2008.

陳偉：新中国体育とオリンピック運動両方促進する発展研究，人民体育出版社，2006.

中国北京オリンピック知識ネット，http://www.aoyunchina.com.

中国教育新聞ネット，http://www.jyb.cn.